

窓の外の人

わたしは子どものころ、家族と一緒に一階の家に住んでいた。そのため、窓の外
を人が通るのは普通だった。

大学に入ると、一人暮らしを始めた。学校の近くのアパートに引っ越したばかりで、まだ新しい生活に慣れていなかった。

その日の夜、私はレポートを書いていた。時計を見ると、もう夜の11時だった。「疲れた」と言いながら、窓の外を見た。窓の外には男の人が立っていた。

私はびっくりした。その人の表情は苦しそうだった。私は最初は泥棒かと思
った。しかし、その人は何も言わずに、ただ苦しそうな顔をしているだけだった。

「大丈夫ですか？」

私は窓の外に言った。

「何があったんですか？」

しかし、その人は何も言わなかった。びっくりしたので、私はそのままカー
テンを閉めた。その夜はなかなか眠れなかった。

次の日の朝、アパートの前にたくさんの人が集まっていた。警察も来た。とな
りの人によると、昨日の夜にこのアパートの屋上から、男性が飛び降りたそう
だ。私はとても恐ろしい気持ちになった。暑い日だったが、背中が寒くなった。

昨日の夜に見た顔を思い出した。でも、私の部屋は12階だ。昨日、窓の外に
いた人はだれだったのだろうか。

(485字)

(2026.7 Written by HUANG Xiao)

(Reformulated by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.